

〔「東京おひさまベリー」の育苗・定植技術の改善〕

鉢サイズおよび採苗日がマルチ春定植の「東京おひさまベリー」の収量に及ぼす影響

海保富士男・徳田真帆・野口 貴・蜷木朋子  
(園芸技術科)

【要 約】「東京おひさまベリー」のポット苗・マルチ春定植は、鉢サイズが収量に影響しないこと、早い時期の採苗で追肥が遅れると肥料切れすることがわかった。9月下旬採苗でも適切な時期に追肥を行えば、慣行栽培や仮植据置苗の春定植と同程度の収量となる。

【目 的】

前課題において、「東京おひさまベリー」の仮植・据置苗の春定植は実用性があることを報告した。さらに、春定植の効率化を図るため、穴あきマルチの敷設後にポット苗を春定植する方法が考えられる。そこで、春定植用ポット苗の鉢サイズおよび採苗日が収量に及ぼす影響について調べ、ポット苗のマルチ春定植の実用化する上での課題を明らかにする。

【方 法】

「東京おひさまベリー」を供試し、ハウス内ベンチでランナーを増殖した。2021年7月21日、8月4日、20日、9月10日、27日に野菜チーム果菜用培養土を充填した9cmと10.5cmのポリポットで鉢受け・採苗した。ハウス内で採苗した苗を10月12日に露地に出して育苗した。追肥は表2とおりに施用した。2022年3月2日に黒マルチ9230の敷設したベッドに定植した。肥料は、成分量でN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=9:17:9kgを施用した。1区10株の2反復で収量、生育の調査を行った。

【成果の概要】

1. 収穫開始日は、鉢サイズおよび採苗日で差はなかった(表1)。総収量および可販果収量は鉢サイズで差がなかったが、採苗日が遅くなるほど多くなった(図1,表1)。これは、ポット育苗時に採苗から追肥までの間隔が空いてしまい(表2)、採苗日が早い苗ほど下葉の黄化が目立ち(データなし)、肥料切れを起こしているものと考えられる。
2. 総収穫果および可販果の収穫果数は、収量と同様に鉢サイズで差がなく、採苗日が遅くなるほど多くなった(表1)。また、総収穫果と可販果の1果重は、鉢サイズが10.5cmで小さくなり、また採苗日にも差がみられ、8月4日と20日で小さい傾向があった。
3. 生育をみると、株重は鉢サイズおよび採苗日で差がなかった(表2)。分けつ数は、鉢サイズで差がなかったが、採苗日に差がみられ、8月4日と20日で多い傾向だった。大果房と小果房は、鉢サイズで差がなく、採苗日が遅いほど多く発生した。果房が全く発生しない株および大果房の発生しない株は、8月20日以前の採苗で多くみられた。
4. 穴あきマルチ敷設後にポット苗を春定植したものを、慣行栽培や仮植据置苗の春定植と比較すると、早く採苗したものでは、肥料切れを起して収量が少なくなった。しかし、採苗が遅い9月27日にしたもので、慣行栽培や仮植据置苗と収量は同程度であった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 育苗中で肥料切れを起こさないように管理し、採苗日が収量、品質に及ぼす影響を再度検討し、ポット苗のマルチ春定植の最適な採苗時期を明らかにする。

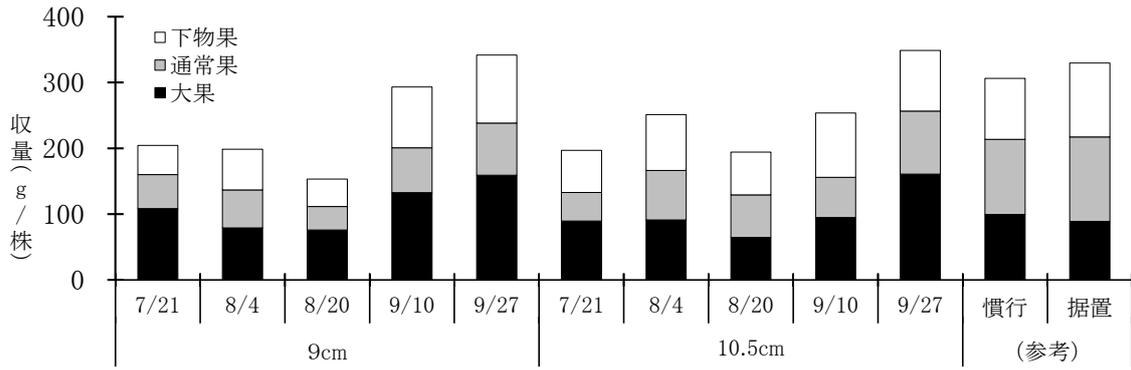


図1 採苗日および鉢サイズが収量に及ぼす影響

(参考) 慣行:8/25仮植, 10/10定植, 3/10マルチ  
据置;8/25仮植, 3/2定植, 3/10マルチ

表1 鉢サイズおよび採苗日が収量に及ぼす影響

処理区		収穫開始		総収穫果			可販果 <sup>a</sup>		
鉢サイズ (A)	採苗日 (B)	開始 (月/日)	終了 (月/日)	重量 (g/株)	果数 (個/株)	1果重 (g/果)	重量 (g/株)	果数 (個/株)	1果重 (g/株)
9cm	7/21	5/8	5/31	204	12.0	17.1	160	8.9	18.2
	8/4	5/6	5/31	199	14.9	13.3	137	8.8	15.6
	8/20	5/5	5/31	153	10.9	14.2	111	6.8	16.5
	9/10	5/5	5/31	293	20.2	14.8	201	11.9	17.1
	9/27	5/6	5/31	342	23.9	14.3	238	14.2	16.8
10.5cm	7/21	5/5	5/31	197	14.5	13.5	133	8.4	15.6
	8/4	5/5	5/31	251	20.9	12.0	166	11.9	13.9
	8/20	5/5	5/31	194	15.5	12.5	129	9.0	14.4
	9/10	5/5	5/31	254	17.9	14.2	156	9.5	16.4
	9/27	5/5	5/31	349	24.4	14.3	257	15.3	16.7
要因効果	A	ns	ns	ns	ns	**	ns	ns	*
	B	ns	ns	**	**	**	*	**	*
	A×B	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns	ns

要因効果において\*は5%水準, \*\*は1%水準で有意性あり, nsは有意性なし  
a) 大果(15g以上)と通常果(6~15g)を合わせたもの

表2 各区の追肥日, 鉢サイズおよび採苗日が生育に及ぼす影響

処理区		追肥 <sup>a</sup> 月/日 (日数)	株重 (g/株)	分けつ数 (本/株)	果房数 <sup>b</sup>		果房なし <sup>c</sup> 株数 (株)	大果房 <sup>d</sup> なし株数 (株)
鉢サイズ (A)	採苗日 (B)				大果房 (本/株)	小果房 (本/株)		
9cm	7/21	10/22 (93)	520	5.4	4.6	0.1	3	1
	8/4	10/22 (79)	576	6.0	4.2	0.4	2	2
	8/20	10/29 (70)	670	6.5	4.1	1.0	1	3
	9/10	10/29 (49)	559	5.5	7.8	1.8	0	0
	9/27	11/8 (42)	509	5.1	8.3	2.5	0	0
10.5cm	7/21	10/22 (93)	554	5.1	7.0	0.9	1	1
	8/4	10/22 (79)	588	6.4	7.7	1.7	1	2
	8/20	10/29 (70)	637	6.3	5.4	2.0	3	0
	9/10	10/29 (49)	671	6.1	6.8	1.0	0	1
	9/27	11/8 (42)	548	5.3	10.6	2.2	0	0
要因効果	A		ns	ns	ns	ns		
	B		ns	**	*	**		
	A×B		ns	ns	ns	ns		

要因効果において\*は5%水準, \*\*は1%水準で有意性あり, nsは有意性なし

a) 表記の月日にひと鉢にIB化成3個を施用, カッコ内数値は採苗後日数, その後11/18に全鉢にIB化成4個を施用

b) 小果房:小果(6g以下)しか着いていない果房, 大果房:小果房以外の大果(15g以上)と通常果が着いている果房

c) 2反復20株で果房が全く出ていない株数

d) 2反復20株で大果房が出ていなく, 小果房のみ出てる株数